

2012年度 同志社大学大学院司法研究科
入学試験

民事法Ⅱ
(商法)

解答用紙は問題ごとに分かれているので、注意すること。

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この表紙を開けてはいけない。
2. 資料として配付する六法はケースに入れて机の上に置き、試験開始の合図があるまで、開けてはいけない。また、六法に傍線等書き込みや折り曲げをしてはいけない。
3. 筆記用具（ペンまたは黒鉛筆（HB または B））、消しゴム、下敷き（ただし、下敷き使用の場合は許可を得ること）、時計（時計機能だけのもので、秒針が音を刻むことがないものに限る）、鉛筆削り（電動式は除く）、その他特に許可したもののほかは使用できない。HB・B 以外の硬度の鉛筆やシャープペンシルを使用して判読しにくい文字にならないよう注意すること。これ以外の携帯品は、試験監督者の指示にしたがって試験開始までに所定の場所に置くこと。修正液、修正テープの使用は認めない。なお、ラインマーカーや色鉛筆の使用は、問題検討のために問題紙に限り使用を認める。解答用紙や資料として配布する六法への使用は認めない。
4. 問題紙の本文は、1 頁である。試験開始後ただちに欠落や印刷の不鮮明な箇所がないか確認すること。欠落や印刷の不鮮明な箇所がある場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
5. 解答用紙は、第1問・第2問が2枚1組、第3問・第4問が2枚1組の計4枚である。解答用紙の左側にそれぞれ問題番号が記載されているので、必ず対応する解答用紙に解答を記入すること。
6. 各解答用紙の左下に受験番号の記入欄がある。組になっている2枚目以降の解答用紙の受験番号欄にも受験番号を正確・明瞭に記入すること。
7. 試験開始後は、終了まで試験場から退室できない。
8. 試験はすべて監督者の指示によって行う。監督者の指示にしたがわない場合や不正行為を行ったときは、試験場から退出させることがある。
9. 試験中に気分が悪くなる等やむを得ない場合は、黙って手を挙げ、監督者の指示にしたがうこと。
10. 試験終了の合図とともに、すみやかに筆記具を置き、監督者の指示を待つこと。許可があるまで試験場を退室できない。
11. 試験終了後、問題紙は各自持ち帰ること。
12. 不正行為防止のため、携帯電話やPHS等の通信機器の使用は認めない。電源を切ってカバン等にしまうこと。
13. 耳栓は監督者からの指示が聞こえないので、使用は認めない。
14. 試験時間中の飲食は禁止するが、水分補給のため、ふた付きのペットボトル（ペットボトル以外は不可）に入った飲料を持ち込んで飲むことは認める。ただし、机には置かず、ふたを閉めて足元に置くこと。机上にこぼしたり、水滴によって解答用紙を汚損しないよう十分注意すること。

2012年度 同志社大学大学院 司法研究科

入学試験問題 法律科目試験

(商 法)

公開会社における株主総会と、取締役会設置会社でなく監査役も設置されていない非公開会社における株主総会に関する会社法の規制の相違に関する以下の各問いに、根拠条文を示しつつ答えなさい。

第1問 (配点：15点)

株主総会の権限として決議することが可能な事項について、どのような相違があるか。それは、どのような考えに基づいているか。

第2問 (配点：15点)

株主総会の招集通知の方法について、どのような相違があるか。また、定時株主総会の招集通知に際して株主に対し提供されるべき書類等について、相違はあるか。それらは、どのような考えに基づいているか。

第3問 (配点：10点)

株主総会の目的である事項につき、株主が会社に対して行う提案について、どのような相違があるか。それは、どのような考えに基づいているか。

第4問 (配点：10点)

株主総会の目的である事項として通知されなかった事項につき株主総会が決議を行うことについて、どのような相違があるか。それは、どのような考えに基づいているか。

2012年度 同志社大学大学院司法研究科
入学試験

民事法Ⅱ
(民事訴訟法)

解答用紙は問題ごとに分かれていますので、注意すること。

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この表紙を開けてはいけません。
2. 資料として配付する六法はケースに入れて机の上に置き、試験開始の合図があるまで、開けてはいけません。また、六法に傍線等書き込みや折り曲げをしてはいけません。
3. 筆記用具（ペンまたは黒鉛筆（HB または B））、消しゴム、下敷き（ただし、下敷き使用の場合は許可を得ること）、時計（時計機能だけのもので、秒針が音を刻むことがないものに限る）、鉛筆削り（電動式は除く）、その他特に許可したもののほかは使用できない。HB・B以外の硬度の鉛筆やシャープペンシルを使用して判読しにくい文字にならないよう注意すること。これ以外の携帯品は、試験監督者の指示にしたがって試験開始までに所定の場所に置くこと。修正液、修正テープの使用は認めない。なお、ラインマーカーや色鉛筆の使用は、問題検討のために問題紙に限り使用を認める。解答用紙や資料として配布する六法への使用は認めない。
4. 問題紙の本文は、2頁である。試験開始後ただちに欠落や印刷の不鮮明な箇所がないか確認すること。欠落や印刷の不鮮明な箇所がある場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
5. 解答用紙は、第1問が2枚1組、第2問が2枚1組の計4枚である。解答用紙の左側にそれぞれ問題番号が記載されているので、必ず対応する解答用紙に解答を記入すること。
6. 各解答用紙の左下に受験番号の記入欄がある。組になっている2枚目以降の解答用紙の受験番号欄にも受験番号を正確・明瞭に記入すること。
7. 試験開始後は、終了まで試験場から退室できない。
8. 試験はすべて監督者の指示によって行う。監督者の指示にしたがわない場合や不正行為を行ったときは、試験場から退出させることがある。
9. 試験中に気分が悪くなる等やむを得ない場合は、黙って手を挙げ、監督者の指示にしたがうこと。
10. 試験終了の合図とともに、すみやかに筆記具を置き、監督者の指示を待つこと。許可があるまで試験場を退室できない。
11. 試験終了後、問題紙は各自持ち帰ること。
12. 不正行為防止のため、携帯電話やPHS等の通信機器の使用は認めない。電源を切ってカバン等にしまうこと。
13. 耳栓は監督者からの指示が聞こえないので、使用は認めない。
14. 試験時間中の飲食は禁止するが、水分補給のため、ふた付きのペットボトル（ペットボトル以外は不可）に入った飲料を持ち込んで飲むことは認める。ただし、机には置かず、ふたを閉めて足元に置くこと。机上にこぼしたり、水滴によって解答用紙を汚損しないよう十分注意すること。

2012年度 同志社大学大学院 司法研究科

入学試験問題 法律科目試験

(民事訴訟法)

第1問 (配点：25点)

次の設例を読んで、以下の問に答えなさい。

〔設例〕

XおよびYは同じ分譲マンションの住民であり、Xがマンションの1階に、またYがその真上の2階に住んでいた。

ところが、Yの不注意で排水溝が詰まり、その結果、階下のXの住居に汚水を至らせるという事故が生じた。Xの試算では、部屋のクリーニング費用、内装の貼り替え費用、電化製品ほかの生活用品の買い換え費用、当面の間別に住居を借りるための費用等々、損害額は1000万円近くとなった。

XがYに対して賠償のための話し合いを求めたが、Yはこれに応じようとしな。そこでXはYに対して、損害賠償を求める訴えを提起しようと考えた。

問(1) Xは損害額を1000万円と見積もった上で、その内の一部である500万円についての損害賠償を求める訴えを提起した。ところが、Xはこの訴訟が係属中に、見積もった損害額の残額である500万円について別訴を提起してきた。この別訴は適法か論じなさい。(配点：10点)

問(2) 先に係属した訴訟において400万円の支払を命ずる判決が言い渡されこれが確定した場合、このことが後から係属した訴訟に何らかの影響を及ぼすか論じなさい。(配点：15点)

第2問 (配点：25点)

次の設例を読んで、以下の問に答えなさい。

〔設例〕

Xは、Yに商品を売り渡したが、代金の支払がなされなかったため、Yに対し、売買代金の支払を求める訴訟を提起した。この訴訟において、Yは、売買契約は錯誤により無効であると主張して争った。証拠調べの結果、裁判所は売買契約が有効であることを認め、Xの請求を認容し、そのまま判決が確定した(前訴)。

その後、上記請求認容判決に基づき、XがYに対して強制執行を行ったところ、YはXに対し、請求異議の訴え(民事執行法35条)を提起した(後訴)。

問 後訴において、Yが以下の(ア)～(ウ)の各主張を行うことは、前訴判決の既判力によって遮断されるか、論じなさい。

(ア) Yは売買代金を支払ったという主張

(イ) 売買契約は、Xの詐欺によるものであったので取り消すという主張

(ウ) YはXに対して貸金債権を有しているので、売買代金債権と相殺するという主張